

## 第9回富士見市総合計画審議会会議録

日 時	平成29年1月20日（金）			開 会 午後7時00分 閉 会 午後9時45分
場 所	市長公室	出席者数	委員定数12名中 出席者9名	
出席者	委 員	小山会長、岩田副会長、臼杵委員、大久保委員、大曾根委員 高橋委員、三宅委員、守山委員、吉原委員 ※欠席：加治委員、金子委員、吉田委員		
	事 務 局	<b>【事務局職員（総合政策部 政策企画課）】</b> 島田総合政策部長、斉藤総合政策部副部長兼政策企画課長、 荒田副課長、佐藤主査、野崎主査		
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 「富士見市総合計画 第5次基本構想 後期基本計画(案)」に対する意見募集（パブリックコメント）の結果等について</li> <li>・ 「富士見市総合計画 第5次基本構想 後期基本計画（案）」に対する意見募集の結果について</li> <li>・ 平成28年度 地域説明会 議事録</li> <li>・ 第5次基本構想・後期基本計画（案）</li> <li>・ 答申（案）</li> </ul>			
公開・ 非公開	公開（傍聴 0名）			

1 開会 総合政策部副部長兼政策企画課長

2 会長あいさつ 小山会長

3 今後のスケジュール 事務局

4 議事

**後期基本計画（案）に対する意見募集の結果等について**

- ・「意見募集（パブリックコメント）の結果等について」の資料に基づき、事務局からパブリックコメントの概要と計画案の修正箇所を説明。この他に、軽微な文言修正等を行ったことも説明。
- ・パブリックコメント結果を章ごとに説明。1月16日に開催した庁内の検討委員会を経て、変更した箇所も併せて説明。また、「地域説明会 議事録」について、軽微な文言修正等をしたことを説明。

○質疑応答

**<第1章 未来を担う子どもを育み、育ちあう人のまち>**

委員：市内の人口や年齢構成の変化により世代交代が行われているなか、基本計画の策定にあたり柔軟性が必要と感じている。

近年課題となっている子どもの貧困が、1章1節の9番目に位置付けられているのはどうかと思う。

都内では、私立高校の授業料無償化が報道されていたが、富士見市の子どもは対象外である。こうしたところも県に働きかけて支えていくことはできないか。

事務局：時代の変化とともに、人口構成が変化してきていることは事実である。その変化に柔軟に対応していくため、予算や実施計画で内容をつめて取り組んでいく。基本計画の中では、主な取り組みを記載しているが、社会状況等の変化には対応する。

また、貧困は重要な課題として認識しており、9番目のランクというわけでない。基本計画の前期、中期と見直しを進めてきた中で、新たに出てきた課題として計画の中に位置付けたものである。

高校の授業料無償化は、県も課題として捉えており、市としても県への働きかけにより議論になっていけばと考えている。

委員：計画（案）9ページの（5）「保育環境の充実」のなかで、待機児童が36人とあるが、0～5歳児の中で、何歳児が課題となっているのか。

また、パブリックコメント回答案のNo.2、市の考え方について、全クラブがいじめ防止サポーターに登録して活動しているとあるが、いじめに対する教育も意識してほしい。

事務局：待機児童は、0～2歳の低年齢児を中心としている。現在、保育施設整備・小規模保育の開設に向け準備を進めている。また、いじめについては、「蔓延しているそうです」というご意見をいただいたことから、改めて現場の認識を確認した。児童クラブでの異年齢交流のなか、早めにいじめの芽を摘むことが重要であることから、教育委員会と連携しながら取り組んでいく。地域の方にも力を借りたい。

委員：保育士や介護士などの報酬が少ないなかで、保育士に対する報酬増額の国の方針が出た。保育士に限らず、他の職業でも報酬増についての検討をしていただければと思っている。

委員：パブリックコメント回答案No.8で、シャバツ市との文通とあるが、人の交流は行わないのか。

事務局：国際友好協会などの団体では実施しているようである。機会があれば検討していきたい。

## <第2章 健康で生きいき、相互に支えあう人のまち>

委員：計画（案）43ページの第4節「高齢者福祉の充実」で、10年後も安心して過ごせるようには見えないため不安である。子どもに対する施策だけでなく、高齢者に対する施策も行政の方針でしっかりとしてほしい。

委員：特別養護老人ホームの利用申請をしても、順番待ちが多くとても利用できる状況ではない。

事務局：市では身近に相談できる仕組みとして、高齢者あんしん相談センターを5ヶ所設置している。また、3年毎に高齢者保健福祉計画の見直しを行っており、平成29年度はその見直し年となっている。見直しにあたっては、ここで出た意見を含め議論が必要と感じている。「健康長寿」をキーワードに、元気な人はより元気に、特別養護老人ホームなどの施設利用は、なるべく短くなるような施策が大切であると考えている。

委員：高齢者あんしん相談センターなどは認知度が低いと感じている。行政は、広報やホームページに掲載しているが、わかりにくい。わかりやすく図解で周知してほしい。

事務局：わかりやすく周知できるよう努めていく。

委員：貧困ビジネスが流行ってきている。高齢者本人とその家族への情報提供もお願いしたい。

## <第3章 生涯にわたる学習により、心豊かに輝く人のまち>

委員：パブリックコメントのあり方について、個人の不満表明になっているように感じる。パブリックコメントの意味をしっかりと周知する必要がある。また、審議委員に対する事前の説明も欲しかった。

委員：図書館改修のコンセプトは。

事務局：憩いやふれあい、交流としている。

委員：蔵書数が少ないと感じている。以前、図書の寄附を申し出たが、スペースがな

いとのことから断られたことがある。

委員：立派な施設があっても周知が足りていない。どのようにすれば、有効利用されるのかを考えないことには何も変わらない。どうすれば有効に活用されていくのかを意見募集するのも一つである。

事務局：これまでも広報やホームページなどを通じて周知に取り組んでいるが、図解で示していくことも認知度向上に繋がると思う。

委員：市の情報は聞けば色々と教えてもらえるが、こちらから聞きに行かないとわからない。

委員：市は一生懸命仕事しているのは分かるが、情報が市民に伝わらず空回りしているように感じる。どうしたら情報が届くのか、意見募集をしてみてもどうか。

委員：もっとわかりやすく先読みした情報を発信してほしい。

委員：市内には広告代理店などに勤めている人もいると思うので、そういう宣伝のプロからアドバイスをもらうなどしてみてもどうか。

事務局：様々な意見をいただいたので、広く考えていきたい。

#### <第4章 にぎわいと活力をつくる人のまち>

委員：パブリックコメント回答案で商工業の件がある。商工会とは意見のすり合わせをする予定はあるのか。

事務局：個々の意見のすり合わせをする予定はないが、事業として関連性があるものは連携を図っていく。

委員：計画（案）に企業誘致や産業誘致が掲げられている。静かに暮らしたいなど、市民の価値観は多様であるなか、どういった経緯で方向づけられたのか見えないことに不安がある。福祉、子育て、高齢者施策は、丁寧に積み上げられて制度設計されているが、4章では方向性が大雑把に示されており心配している。

事務局：基本計画は、基本的な方針を示している。施策を進める上では、地域をはじめ、議会とも議論を重ねながら取り組むものであると認識している。また、現段階では、時間や費用、市の発展に向けた雇用や税収など、トータル的に検討が必要と認識している。

委員：「市内3駅」が文中によく登場してくる。交通の利便性・優位性をうたっているものだと思うが、どのように活用するかが課題である。例えば、市で任命したPR大使を活用して、3駅にPR大使の広報板を設置するなどを検討してはどうか。

事務局：PR大使は、2年任期で任命し、市で用意するPR用の名刺を活用してもらっている。また、プロ野球選手の今成さんには野球教室を、レスリング金メダリストの小原さんには子どもスポーツ大学で指導をいただくなど、PR大使が持つ知識や経験などを踏まえてご協力いただいている。

委員：レスリングは貴重な体験であると思うが、その後に受け皿がないため、続かない状況である。

委員：PR大使には来てもらって終わりではなく、さらなる拡がりが出るよう、市内外に向けて情報発信やPR大使の活用を検討してほしい。

委員：富士見ブランドは、市として何をどのように売っていくのかが考えられていないように感じる。ここにしかない、これが売りだということを強調していくことが必要である。

#### <第5章 安全・安心、快適な地域をつくる人のまち>

委員：計画（案）120ページの鶴瀬駅西口、東口の土地区画整理事業の進捗状況で、目標年度に相違があるが、違いは何か。

事務局：目標年度の違いは、事業の開始時期などにより異なっている。

委員：開始時期の違いであれば、指標に事業開始年度を入れたらどうか。次の見直しや計画策定の時にも同じ疑問が出る。

事務局：指標の表記の仕方については、他市も参考にしながら取りまとめてきた。

委員：昨年8月22日の台風9号の影響により、山室地区では床上、床下浸水が発生したが、行政の対応は機能していなかった。近年の天候不順から、降雨量も昨年度比で1.4倍～4.4倍の幅の降雨量が予測されているなか、国では法や計画を新たな方向にシフトチェンジしている。市でも、基本計画の段階から練り直さなければならないと考えている。また、国の動向を踏まえて、内容のすり合わせが必要と考えている。

事務局：計画（案）135ページの「主な取り組み」で、地域防災計画を見直すこととしており、平成29年度に予定している。その中で、発生した後の動きはどうかなど、行動マニュアルも併せた整理を考えている。今回の災害を受け、改めてしっかり取り組んで行く方針である。

委員：志木市では防災メールも配信された。避難の周知はしっかりと検討してほしい。

委員：水谷東地区で避難勧告が出された。避難所となった水谷小学校では、学校長をはじめ、市職員も対応がわからない状況であった。また、市からは町会に対する連絡もない状況であった。水谷地区では今回の災害を教訓に訓練を行う予定である。

パブリックコメント回答案のNo.79の(2)「幹線道路の整備」の中で、立体交差に関する記述がある。地権者との調整が必要であることは理解するが、うまく調整できずに現在に至っている。志木などでは実際に立体交差が来ている。地権者との調整においては、町会長などを同行させるなども一つの方策であると思っている。

委員：防災については、平成27年度に国が示したハザードマップを受けて、市は見直しをしていないことや、ハザードマップをホームページからプリントアウトできると言われても、一般家庭ではA4判のマップしか印刷できず意味がない。備蓄品も人口の5%程度の1日分しかない状況から、避難しないほうが良いのではないかと感じてしまう。もっと、地域と情報を共有し、連携していける仕組みを検討してほしい。

委員：砂川堀りの越水なども含めた情報のアップデートと共有が必要である。

#### <第6章 市民参加・協働により、豊かな自治をつくる人のまち>

委員：計画（案）158ページの（2）「自主財源の確保」のなかで、債権の適正管理とあるが、どのようなことか。

事務局：債権の適正管理は、市税をはじめ、水道料金や保護者負担金など、様々あるなかで、法的に位置づけのあるもの、ないものを含め、債権の取扱いを統一するために条例を制定し、管理していく。他市でも同様の動きがあるため、本市でも取り組んでいく。

委員：所管課に政策企画課が入っているのはなぜか。

事務局：「自主財源の確保」の「主な取り組み」に「まちづくり寄附（ふるさと納税）の実施」を追加した。まちづくり寄附は、政策企画課が担当していることから担当課を追加した。

委員：まちづくり協議会や町会の関係について、今後どのように進めていくのか。

委員：まちづくり協議会は、様々な団体が互いに助け合い、地域課題を解決していくことが一つの考えである。今後、町会長連合会と市とのしっかりとした話し合いが必要と考えている。

委員：今は、町会活動などを担ってくれる人はいるが、世代交代も行われている中で、10年後も同じ体制で運営することは難しいと思う。

委員：町会としても次の担い手の育成が必要だと思っている。

## 5 その他

- ・最終の審議会であることから、各委員より感想を述べていただいた。
- ・総合政策部長あいさつ

## 6 閉会